

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

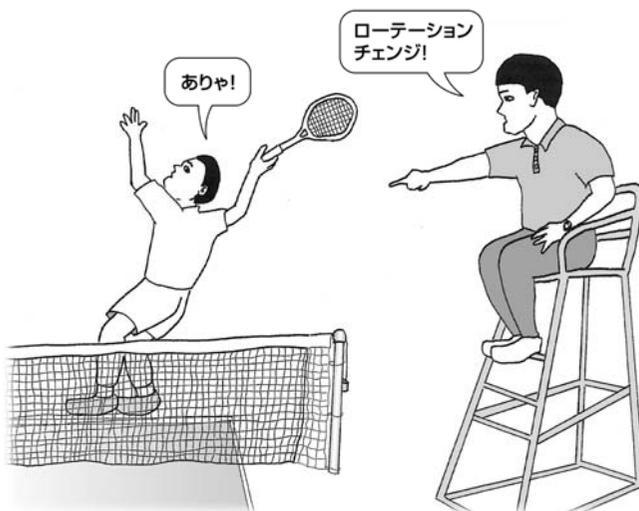
Question

ルールの歴史に興味がある者です。以前パートナーとのサービスの順序を誤った場合およびレシーブの順序を誤った場合についていずれも失ポイントだったと思いますが、今はサービスの順序を誤っても失ポイントではなくなっています。経緯について教えてください。

Answer

国際規則では4人のプレーヤー（AB,CD）それぞれの順序とポジションを確認する必要がある。

ご質問については、この紙面ではルールの変遷の過程をすべて記載することは出来ませんが、重要なポイントについて書いてみます。国際競技規則（1993年1月1日改正）と2001年の国際競技規則（国内適用）から2004年4月1日の国際競技規則の改定に至るまでの対応でした。国際競技規則では、サービスは「2人のプレーヤーは同一ゲーム中に2ポイントずつ交替でサービスを行い、同一ゲーム内ではサービスの順序を替えることができない。」となりましたが、パートナーとのサービスの順序の誤りについては、発見された時に次のポイントから正しい順序にすることとし、アンパイヤーが発見した時は、「ローテーションチェンジ」とコールして正しい順序に訂正することとなりました。



100年の歴史を持つ日本競技規則では「サービスはサーバーの1人が行ない、そのゲーム内はパートナーと交替することができない。」ことになっており、ベースラインプレーヤー（後衛）が分業で専門的にサービスをしていたので、「パートナーとのサービスの順序の誤り」は発生することを考えて無く、罰則自体がありませんでした。一方、レシーブについては、日本競技規則のときから同一ゲーム内での「パートナーとのレシーブの順序の誤りについては「インターフェア」として誤りが発見されたそのポイントは失ポイントでした。ところが国際競技規則の場合、2ポイントずつパートナーと交替でサービスを行う為、プレーが始まる前にサービス及びレシーブをしようとするプレーヤーの順序とポジションについて、誤りを発見した場合はアンパイヤーが指導することとしました。

ところが、この国際競技規則の複雑さから競技規則の盲点を悪用する者が出る等、アンパイヤーの平等性の欠如の理由も手伝って、約10年間の経過後、サービス・レシーブの誤りについては、アンパイヤーの指導はしないこととし、発見されたポイントは「インターフェア」とし、いずれも失ポイントとなっていました。

そして、2004年4月1日の国際規則改訂検討時において、①国際委員会の場合、現行の国内ルールでは国際競技規則と異なる部分があり国際大会で混乱する等から、本来の国際競技規則に統一すべきである。②アンパイヤーの平等性から、誤りに気づいても指導しないのは、神聖なるアンパイヤーとしても教育的見地からも問題がある。等々の意見が出された結果、サービス・レシーブとも誤りに気づいた場合アンパイヤーが指導（ローテーションチェンジ）することの提案があり、サービスの誤りについては失ポイントにはしないことに改訂し、レシーブについては日本競技規則以来のインターフェアとして失ポイントとすることにしました。

【関連規則】

競技規則第33条（サービスの順序又はサイドの誤り）(2)

競技規則第30条（レシーブ時の失ポイント）(5)